



※グラフデータが見にくく申し訳ありません。よろしければ学校HPのカラー資料を御覧ください。

今年度、本校では「志を持ち 自ら学び 良さを伸ばし合う生徒」の育成を学校教育目標に掲げ、明日も来たる丸塚中学校 ～誰もが安心して学ぶことができる居心地の良い学校～ を目指す学校像とし、【信・義・愛】を合言葉に日々の教育活動を行ってまいりました。このことについて、教育活動の成果が生徒の姿としてどの程度表れているのかを検証するため、生徒・保護者を対象としてアンケートを実施しました。回答への御協力、ありがとうございました。結果を検証し、改善点をもとに来年度の教育活動に生かしてまいります。

1 生徒へのアンケート結果より

学習に関する部分では、『教科を学ぶ意義を知り、めあてを持って授業に臨んでいるか』の項目では、1, 2学期ともに、「そう思う」「だいたいそう思う」の割合が9割を超えています。また、『1時間の授業の中で身に付ける大切な内容の確認ができているか』の項目でも、およそ9割の生徒が、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えています。授業の始めや各単元の始めに、教員が単元の目標や授業の目標を分かりやすく伝える努力をしている表れだと思います。見通しを持つことで、生徒が主体的に学習に取り組むことにつながっていきたいと考えています。

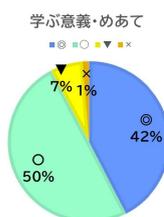
各教科ごとの『教科の内容が自分なりに理解できているか』の結果では、“自分なりに”というところで、生徒個々の習熟度は異なりますが、どの教科においても、8割から9割の生徒が「理解できている」「まあまあ理解できている」と回答しています。個々の習熟度に応じて、教員が適切な声掛けをしたり学習のサポートをしたりすることで、勉強が苦手な生徒も“自分なりに理解できる”と答えているものと思われます。しかし、「理解できていない」と答えている生徒もいます。引き続き、学習が苦手な生徒へのフォローを重点的にしていきたいと考えます。授業の形態も日々変化しており、教師が一方的に教え込むのではなく、生徒同士の意見交換やグループでの話し合い、タブレット端末などを使った個別探究学習など、様々なスタイルの学習が求められています。『授業の中での対話的な学習や探究的な学習で学びを深めることができているか』の項目では、1, 2学期とも9割の生徒が肯定的にとらえていることが分かりました。学習用タブレット端末の活用についても同様の結果となっています。引き続き、教員の研修を進め、特に対話的な学習活動を充実させていきたいと考えています。

次に、『友達の考えを聞くことができる』と『授業の中で、自分の考えや意見を伝えることができる』の2つの項目を比べた時、大きな違いが見られます。「聞くことができる」「まあまあできる」は94%に達しているのに比べて、「伝えることができる」の方は合わせて77%です。これは一昨年度から続いている課題です。授業だけでなく、道徳や総合的な学習の時間、学級活動、学校行事などのあらゆる場面において、自分の考えを表現する力の向上や、安心して表現できる雰囲気づくりに努めていきたいと思ひます。

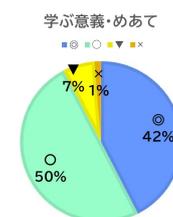
本年度もいじめ防止基本方針をもとに、いじめの予防や早期発見・早期対応・早期解決に向けて取り組んでいます。『自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり仲間はずれをしたりしていない』の項目では、55%の生徒が「そう思う」、39%の生徒が「だいたいそう思う」と答えました。いじめは許されないという意識が生徒にも定着しているものと思われます。『誰もが暮らしやすい教室にするための3カ条』を各学級で年度当初に話し合っ て決めました。これを意識して生活しているかとの問いに対して、「そう思う」「だいたいそう思う」と答えた生徒の割合は86%でした。多くの生徒が自分たちで決めたことを意識していることが分かりました。また、『学級の子とは話しやすい』の項目では、「そう思う」と答えた生徒の割合が昨年度よりも2倍近くに増えています。これらの成果として『あなたにとって明日も来たる丸塚中である』という項目では、92%の生徒が「そう思う」「だいたいそう思う」と答えました。昨年度よりも少し向上しています。しかし、残り8%の生徒へのフォローをしっかりとできるようにしていきたいと思ひます。

Q 教科を学ぶ意義を知り、めあてを持って授業に臨んでいるか

1 学期

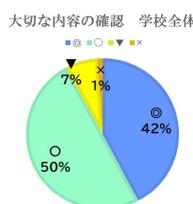


2 学期



Q 1時間の授業の中で、身に付ける大切な内容の確認ができる授業になっているか

1 学期



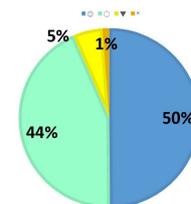
2 学期



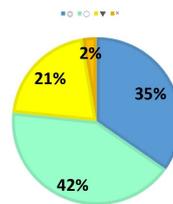
Q 授業の中で...

2 学期

友達の考えを聞くことができる

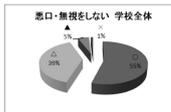


自分の考えや意見を伝えることができる



Q 自他の命の大切さを知っていて、悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれをしたりしていない

令和4年度



令和5年度



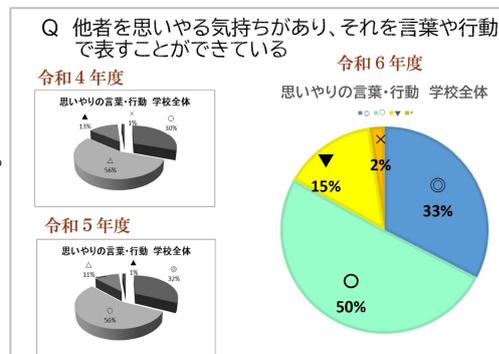
令和6年度



2 保護者へのアンケート結果より

どの項目にもおおむね良好な回答が寄せられていました。『(自分の子供には) 他者を思いやる気持ちがあり、それを言葉や行動で表すことができる』の項目の結果は、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計がおおよそ9割に達しており、生徒自身へ同じ質問をした回答よりも高くなっています。家に帰った後、その日の出来事を保護者と話ができている表れと捉えられます。これは生徒と保護者の良い関係が作られているということだと思っております。今後も、学校生活のさまざまな出来事を、良いことも悪いことも保護者と共有して、学校と家庭との連携を深めることで、生徒のより良い成長につなげていきたいと考えます。

また、『学校行事等は生徒が中心となって運営されている』の問いでは、実際に、体育大会や学芸発表会を見ていただいた2学期末の結果が向上しています。生徒の活躍する場面を実際に見ていただくことはとても大切な機会と捉えています。来年度も引き続き、生徒が中心となって運営できるようなサポートをしていきたいと思っております。



3 課題 …おもな課題を3つ挙げます。

- ① 【自己肯定感】について … 本年度は『自分にはいいところがある』の項目で、「そう思う」が45%、「だいたいそう思う」が38%で、合わせて8割程度となり、向上が見られました。『学級や学年の仲間から、自分の良いところを認められていると思う』の項目も同じような数値が見られます。しかし、「そう思わない」と答える生徒の割合が他の項目よりも多いことに変わりなく、課題となっています。
- ② 生徒アンケートの『自分の意見を話すことができる』について … 授業においても、日常生活での人との関わりの中でも、生徒の自己表現力は引き続き課題であることが分かります。思いがあっても表現力がないことによって、気持ちのすれ違いが起きて、それが人間関係のトラブルやいじめに発展することも考えられます。
- ③ 保護者アンケートの『生徒は進んであいさつをしているか』について … 「あまりそう思わない」「そう思わない」の回答の割合が多くなっています。学校生活の中では、比較的あいさつをしている印象ですが、“進んで”というところが課題であると考えています。

4 改善策 …上記3つの課題に対する今後の取組です。

- ① 【自己肯定感】について … 引き続き、学校全体の課題として改善を目指していきたいと思っております。生徒が自分に自信が持てるように、教員の研修でも生徒を“認める”“褒める”ことに視点を置いた授業や活動についての研修を進めていきます。
- ② 『自分の意見を話すことができる』について … 他者と関わり合う授業実践や自分の考え・感想などを伝える力をつけられるような授業の工夫を進めていきます。来年度は、「対話的な活動に視点を置いた“人間関係づくり”を育む授業実践」に取り組んでいく予定です。また、継続実施している「こころの日」や「心パワーアッププロジェクト」などの取組をさらに充実させていきます。
- ③ 保護者アンケートにおける『生徒は進んであいさつをしているか』について … 来年度、丸塚中学校区は「小さな親切あいさつ運動」の対象校となっています。この活動での取組を通して、自分から進んでさわやかなあいさつができるような生徒を育てていきたいと考えています。

5 学校運営協議会での御意見と今後の取組

生徒・保護者アンケートに基づいた自己評価について、2月21日(金)に行った学校運営協議会において、委員の皆様から多くの御意見をいただきました。その一部を御紹介します。

- ・『自分の考えや意見を伝えられる』と『他者を思いやり、それを言葉や行動で表している』の結果が似ている。自分の言いたいことを上手く言葉にできないという、国語力の問題も関係しているのかもしれない。
- ・グループになって話し合い、修正して答えを導き出すという授業が新鮮だった。
- ・少人数で話し合う場を設定することで、言葉が出てこない生徒を他の生徒が補ってくれる。そうした環境が対話の授業につながっていくのではないかと。
- ・『悪口を言ったり、無視したり、仲間はずれをしたり…』をしている生徒が6%いることが気になる。
- ・いじめについての心構えとして、パーセントの数値だけで判断するのではなく、少人数をしっかりとフォローアップできるようにしてほしい。
- ・学級目標の意味や思いを生徒に直接聞いたところ、すぐに説明でき、それに感動した。

これらの御意見を受け、引き続き自分の考えを伝える、表現できる授業や活動を意図的に設定していきます。その言動を友人や先生が認め、励ましていくことが自己肯定感の高まりにもつながると考えます。さらに、これが生徒同士の良好な人間関係づくりにも自然と生かされるはずですが、自己表現が苦手だったり、人間関係に苦しんでいたりする生徒もいます。そうした生徒に寄り添った早期対応を心掛けていきます。来年度、あいさつという基本的な会話をはじめとした、“対話”に重点を置いた教育活動を実践していきます。